

日本人視神経乳頭 形状解析の新展開

2015年9月11日(金) 18:10~19:10

会場: 第1会場 (ウインクあいち 大ホール)



座長

新家 眞 先生
関東中央病院

近年のChauhan等による研究で、視神経乳頭形状解析の基準面は、従来の眼底写真による乳頭縁でなく、SD-OCTにより初めて臨床的に観察することが可能となったBruch's membrane opening (BMO)によるべきであるということが明らかになってきた。

BMOを基準とすれば、従来の視神経乳頭に関する正常値はすべて書き換えられなければいけない。Spectralis Japanese Normative Data Study Groupは白人種に次いで世界で二番目に日本人正常者データの取得を完了した。

今回のセミナーではSpectralis-BMO解析で明らかとなった白人-日本人間の視神経乳頭形状の違いとその臨床的意義についてChauhan先生にお話しただくと同時に、日本を代表する3人の先生方に、それぞれ論点を提示していただき皆でDiscussionしていただくこととした。世界最先端の知見をリラックスした雰囲気のもと、ワインを楽しみながらお聞き頂ければ幸いである。



演者

The Normal Optic Nerve Head and Retinal Nerve Fiber Layer: Comparing White and Japanese Populations

Dr. Balwantray C. Chauhan
Dalhousie University

パネルディスカッション



パネリスト

大久保 真司 先生
金沢大学・おおくぼ眼科クリニック



パネリスト

中澤 徹 先生
東北大学



パネリスト

板谷 正紀 先生
埼玉医科大学